一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	膵癌切除不能例に対する術中照射療	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	放射線療法は切除不能膵癌の QOL を改善するか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	胆と膵(0388-9408)	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号		
	ページ	139-144	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1994	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	平岡武久	熊本大学第 1 外科
	その他著者 1	金光敬一郎	
	その他著者 2	西田英史	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	切除不能膵癌に対する術中照射の意義を検討。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	熊本大学第1外科	
	対象者	切除不能膵癌 31 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	13例にバイパスなど各種の手術。12例に各種化学**療法。術中照射は10～18MeV電子線25～40Gy。外照射併用なし。**	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	疼痛緩和	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	腫瘍縮小効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	生存期間中央値は全体で4ヵ月，肝転移例2.9ヵ月，非肝転移例4.8ヵ月。21例中17例(81.0%)に疼痛緩和。85.7%に腫瘍縮小効果。有害事象4例(消化管出血3例，空腸狭窄1例)。	
	結論	術中照射は除痛効果や腫瘍縮小効果は有望であったが，生存期間の延長には寄与しない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	永倉久泰，唐澤克之	
	レビューワーコメント	1985年以前の古い症例が大多数を占めている。術後照射を加えていないためか，MST短い。術中照射単独(外照射併用なし)では疼痛緩和は期待できても生存期間延長は期待できないことの傍証には使えるという程度か。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	High dose, external beam and intraoperative radiotherapy in the treatment of resectable and unresectable pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	放射線療法は切除不能膵癌の QOL を改善するか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号		
	ページ	605-611	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1990	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Shibamoto Y	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kyoto University, Japan
	その他著者 1	Manabe T	
	その他著者 2	Baba N	
	その他著者 3	Sasai K	
	その他著者 4	Takahashi M	
	その他著者 5	Tobe T	
	その他著者 6	Abe M	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	切除または非切除の膵癌に対する外照射と術中照射の有効性を検討する。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kyoto University, Japan	
	対象者	外照射，術中照射またはその両方を施行した膵癌90例。対照として，1975年1月から1983年2月まで切除単独のみ施行された112例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	外照射は根治切除例に対して50～55 Gy，非根治切除または非切除例に対しては55～60 Gy術中照射線量は根治切除例には25 Gy，非根治切除，あたは非切除例には30～33Gy照射した。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	疼痛効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	肉眼的切除後に放射線治療を施行した群の生存期間中央値は14ヵ月と切除単独群の10ヵ月に比し少しよかったが，3年生存率は21%，19%とほぼ同じであった。非根治切除例では，照射例の生存期間中央値は12ヵ月で，非照射群の6.5ヵ月より有意によかった。切除不能，遠隔転移のない症例では，照射例の生存期間中央値は8ヵ月と非照射の3.5ヵ月より有意によかった。遠隔転移のある症例においても照射例が4.5ヵ月と非照射の2.5ヵ月よりも生存期間がよかった。疼痛緩和が得られたのは27例(90%)であった。	
	結論	外照射と術中照射の組み合わせは膵臓癌の治療に有用である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	伊藤芳紀，根本建二	
	レビューワーコメント	生存に関して照射併用がよさそうであるが，subanalysisでは症例数がそれほど多くなく，バイアスも考えられ，断定的なことはいえない。安全性はあるようである。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	切除不能膵癌に対する術中照射と術後原体照射の併用療法 －特に1年以上生存13例の検討－	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	放射線療法は切除不能膵癌の QOL を改善するか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日本消化器外科学会雑誌(0386-9768)	
	雑誌 ID		
	巻	25	
	号		
	ページ	1020-1026	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	岡本篤武	東京都立駒込病院外科
	その他著者 1	鶴田耕二	
	その他著者 2	田中良明	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	術中照射(+外照射)の成績報告と 1 年以上生存例の検討。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	東京都立駒込病院外科	
	対象者	切除不能局所進行膵癌(stage IV)46例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	1980年までの16例には5-FU静注+術中照射，1981年からの30例には5-FU静注+術中照射+術後照射(外照射)	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	除痛効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	腫瘍縮小効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	生存期間中央値は術中照射単独群で6.2ヵ月，外照射併用群で11ヵ月と有意差あり。1年生存率は術中照射単独群で0%，外照射併用群で53.3%。有痛例の57%が疼痛緩和(群間比較なし)。評価可能31例中腫瘍縮小13例，不変12例，増大6例。	
	結論	術中照射は疼痛緩和に寄与する。術中照射は外照射との併用のもとで生存期間延長に寄与する。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	永倉久泰，唐澤克之	
	レビューワーコメント	Historical studyではあるが群間の偏りは少ない。術中照射+術後照射は予後を改善し，除痛効果も良好との結論も妥当と思われる。エビデンスがない以上，術中照射+術後照射の有用性を示すエビデンスとしてはこれ以上高レベルのものが見当たらず，本報告が現時点で最高のレベルかと思われる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Intraoperative radiation therapy for pancreatic carcinoma. The choice of treatment modality	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	放射線療法は切除不能膵癌の QOL を改善するか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Pancreatol	
	雑誌 ID		
	巻	16	
	号		
	ページ	157-164	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1994	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Okamoto A	Department of Surgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Japan
	その他著者 1	Tsuruta K	
	その他著者 2	Isawa T	
	その他著者 3	Kamisawa T	
	その他著者 4	Tanaka Y	
	その他著者 5	Onodera T	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	術中照射の有効性の検証。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Surgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Japan	
	対象者	膵癌90例(非切除+術中照射16例，非切除+術中照射+外照射29例，治癒切除+術中照射±外照射11例，非治癒切除+術中照射±外照射20例，治癒切除単独14例)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	術中照射は非切除例では膵頭部には20 Gy，膵体部には30 Gy照射した。切除例には18～30 Gy照射した。外照射は術後3～4週から開始し，1回2 Gy，腫瘍の残存の有無に応じて30～60 Gy照射した。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	除痛効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	非切除例に対する術中照射と外照射併用は生存期間中央値11.1ヵ月，1年，2年生存率43.3%，3.6%で術中照射単独に比し，有意に生存がよかった。非治癒切除例に対する術中照射単独は非切除+術中照射と外照射併用の場合と生存期間の差はなかった。III期切除例に対する術中照射例の生存期間中央値は43ヵ月，1年，3年，5年生存率は66.9%，55.5%，41.6%で術中照射なしの場合に比し，有意に生存がよかった。疼痛のあった28例中16例に鎮痛効果を認めた(57.1%)。有害事象として，非切除の2例に十二指腸潰瘍を認めた。	
	結論	術中照射+外照射は術中照射単独より生存良好，両者とも疼痛緩和には有効。治癒切除ができない場合など，積極的な切除は避けて術中照射と外照射の併用がよいかもしれない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	伊藤芳紀，根本建二	
	レビューワーコメント	除痛効果はあると思われる。生存に関しては断定的なことはいえない。術中照射は外照射と組み合わせて行うべきとはいえそう。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Intraoperative radiation therapy for pancreatic adenocarcinoma: The Komagome Hospital experience	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	放射線療法は切除不能膵癌の QOL を改善するか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺｰﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Pancrea	
	雑誌 ID		
	巻	28	
	号		
	ページ	296-300	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Okamoto A	Department of Surgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo, Japan
	その他著者 1	Matsumoto G	
	その他著者 2	Tsuruta K	
	その他著者 3	Baba H	
	その他著者 4	Karasawa K	
	その他著者 5	Kamisawa T	
	その他著者 6	Egawa N	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	膵癌に対する術中照射と外照射の有用性について後ろ向きに検討。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Surgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo, Japan	
	対象者	術中照射と外照射を併用して治療された膵癌144例(非切除例65例，切除例68例，動注療法併用した非切除例11例)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	術中照射は非切除例には15～30 Gy照射，切除例には18～25 Gy照射した。外照射は40～60 Gy。動注療法は外照射期間中に血行改変してカテーテルを総肝動脈に留置し施行。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	鎮痛効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	非切除例+術中照射+外照射の1年，3年，5年生存率は38.2%，10.1%，0%で，生存期間中央値は10.8ヵ月であった。切除例では各々56.9%，22.6%，6.7%，14.6ヵ月で，非切除例に比し有意差を認めた。動注併用の非切除11例の1年生存率は45.4%であった。64%で疼痛緩和が得らえた。	
	結論	本治療では非切除，切除例ともに生存に関する有用性は限りがあるようである。新規抗癌剤を用いた動注療法併用は期待できるかもしれない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	伊藤芳紀，根本建二	
	レビューワーコメント	後ろ向き研究であるが，症例数は多い。生存期間の延長はなしか。動注療法併用に関しても今後の前向きな検討が必要であると思われる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of unresectable, locally advanced pancreatic adenocarcinoma with combined radiochemotherapy with 5-fluorouracil and cisplatin	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	放射線療法は切除不能膵癌の QOL を改善するか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺｰﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Pancreas	
	雑誌 ID		
	巻	25	
	号		
	ページ	360-365	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Azria D	Department of Radiation Oncology, Val d'Aurelle-Paul Lamarque Cancer Institute, Montpellier, France
	その他著者 1	Ychou M	
	その他著者 2	Jacot W	
	その他著者 3	Thezenas S	
	その他著者 4	Lemanski C	
	その他著者 5	Senesse P	
	その他著者 6	Prost P	
	その他著者 7	Delard R	
	その他著者 8	Masson B	
	その他著者 9	Dubois JB	
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	局所進行膵癌に対する放射線治療と5-FUとcisplatinとの同時併用の有効性と安全性を検討する。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Radiation Oncology, Val d'Aurelle-Paul Lamarque Cancer Institute, Montpellier, France	
	対象者	局所進行膵癌27例(組織学的に証明あり:22例，証明なし：5例)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	5-FU 600 mg/m²をday1～5に22時間かけて持続静注，cisplatinはday2に100 mg/m²点滴投与し，これを3週間毎に繰り返した。放射線治療は1回2 Gy，週5回で，day1～12, 22～34に照射する予定(休止期間を設けた症例が18例あった。総線量中央値は42.5 Gyであった。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	腫瘍縮小効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	clinical benefit response	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	20例(78%)で予定治療期間に治療できた。有害事象はgrade 4は認めなかった。grade 3は好中球減少1例(4%)，血小板減少2例(7%)，貧血1例(4%)，嘔気/嘔吐6例(22%)であった。腫瘍縮小効果は，PR8例(30%)であった。生存期間中央値は9ヵ月，1年生存率は21%であった。増悪するまでの期間中央値は4.4ヵ月であった。再発形式は局所のみが7例(26%)，局所と腹膜転移が12例(44%)，局所と肝転移が10例(37%)，肺転移が7例(26%;肺転移のみは1例で6例は肝転移または腹膜転移もあり)，骨転移2例(7%)であった。疼痛は20例で改善した。Clinical benefit responseは7/27(26%)であった。	
	結論	本治療レジメンは局所進行膵癌に対して，重篤な有害事象なく臨床上有用である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	伊藤芳紀，唐澤克之	
	レビューワーコメント	有害事象は容認できるが，有効性は5-FU併用放射線治療などの他の試験の報告と比して，特に有効とはいえないと思われる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A randomized multicenter trial comparing resection and radiochemotherapy for resectable locally invasive pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(3)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	136	
	号		
	ページ	1003-1011	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Imamura M	3次，多施設共同
	その他著者 1	Doi R	
	その他著者 2	Imaizumi T	
	その他著者 3	Funakoshi A	
	その他著者 4	Wakasugi H	
	その他著者 5	Sunamura M	
	その他著者 6	Ogata Y	
	その他著者 7	Hishinuma S	
	その他著者 8	Asano T	
	その他著者 9	Aikou T	
	その他著者 10	Hosotani R et al.	

一次研究の 8 項目			
	目的	Stage IVa 治療として，根治的外科切除と5-FU放射線化学療法の比較。	
	研究デザイン	Evidence level II	
	セッティング	3次，多施設共同	
	対象者	Stage IVa膵癌	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	治癒切除(第5版の2群リンパ節郭清，神経叢半周切，放射線化学療法)	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	入院期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	QOL	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	外科切除群は放射線化学療法群より 1 年生存期間(62% vs 32%, p=.05)，平均生存期間(＞17 vs 11 months, p＜.03)，ハザード比(0.46, p=.04)で勝っていた。2群間QOLに差はなかった。	
	結論	局所進行膵癌(Stage Iva)治療法として外科切除を選択することは，患者に利益がある。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	外科切除と放射線化学療法臨床比較試験である。対象病期が限定されているが，Stage IVaに手術切除を推奨する根拠となる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreaticoduodenectomy for cancer of the head of the pancreas. 201 patients	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	221	
	号		
	ページ	721-731	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Yeo CJ	3次，単一大学施設
	その他著者 1	Cameron JL	
	その他著者 2	Lillemoe KD	
	その他著者 3	Sitzmann JV	
	その他著者 4	Hruban RH	
	その他著者 5	Goodman SN	
	その他著者 6	Dooley W C	
	その他著者 7	Coleman J	
	その他著者 8	Pitt HA	
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	単一施設の，膵頭部癌の膵頭十二指腸切除術のアウトカムを解析する。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	3次，単一大学施設	
	対象者	201例の組織学的に膵管癌と診断され，膵頭十二指腸切除術が行われた患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	膵頭十二指腸切除術	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	記述的患者因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	切除術式	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	出血量，輸血量，手術時間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	腫瘍サイズ，組織学的 grade	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	リンパ節転移	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6	断端 DNA 含有量	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	7	S 期率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	8	補助療法、	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	9	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	10	手術死亡率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	主な結果	平均63歳(中央65歳)，男108人，女93人。手術死亡率５%(最初の52人は17%，のちの149人は0.7%)。5年生存率21%，MST 15.5ヵ月。11人の5年生存者。腫瘍剥離面陰性の5年生存率26%，MST 18ヵ月，腫瘍剥離面陽性症例の5年生存率8%, MST 10ヵ月。1970年台と1980年台と1990年台で生存率に差有り。単変量解析で，DNA含有量，腫瘍径，リンパ節転移陰性，PPPD，800m/以下の出血，２単位以下の輸血，腫瘍剥離面陰性，補助化学放射線療法が生存期間に影響した。多変量解析でDNA含有量，腫瘍径，リンパ節転移陰性，腫瘍剥離面陰性，切除時期が有意な因子であった。	
	結論	膵頭十二指腸切除術による膵癌の治療成績は改善しつつある。DNA含有量，腫瘍径，リンパ節転移陰性，腫瘍剥離面陰性は予後規定因子である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	10年単位で生存率が改善していることを示した論文。他の論文の手術死亡率の改善と併せて，切除手術を推奨する側面的根拠を提供する論文といえる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Practical usefulness of lymphatic and connective tissue clearance for the carcinoma of the pancreas head	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	208	
	号		
	ページ	215-220	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1988	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ishikawa O	3次，単一施設，大阪成人病センター
	その他著者 1	Ohhigashi H	
	その他著者 2	Sasaki Y	
	その他著者 3	Kabuto T	
	その他著者 4	Fukuda I	
	その他著者 5	Furukawa H	
	その他著者 6	Imaoka S	
	その他著者 7	Iwanaga T	
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	膵頭部癌手術におけるリンパ節郭清と膵周囲組織切除の意義の検証。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	3次，単一施設，大阪成人病センター	
	対象者	R1(今のD1-2)1971～1981年 37人，R2(今でいうD3)1981～1983年 22人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	郭清度	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	大阪成人病センターでは膵頭部癌に対し，1971年から1981年の37人にR1(D1)手術，1981年から1986年の22人に対しR2(D2)手術を行い，手術死亡率がそれぞれ14%と5%であり，3年生存率はそれぞれ13%と38%であったと報告した。	
	結論	4cm以下で，強い後腹膜浸潤がなければ，拡大手術は患者に利益がある。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	大阪成人病センターでは膵頭部癌に対し，1971年から1981年の37人にR1(D1)手術，1981年から1986年の22人に対しR2(D2)手術を行い，手術死亡率がそれぞれ14%と5%であり，3年生存率はそれぞれ13%と38%であったと報告した。4cm以下で，強い後腹膜浸潤がなければ，拡大手術は患者に利益があるという結論。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Rates of complications and death after pancreaticoduodenectomy: Risk factors and the impact of hospital volume	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (6)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	232	
	号		
	ページ	786-795	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Gouma DJ	Dept. Surgery, Clinical Epidemiology, Academic Medical Center (AMC), Amsterdam, Netherlands
	その他著者 1	van Geenen RC	
	その他著者 2	van Gulik TM	
	その他著者 3	de Haan RJ	
	その他著者 4	de Wit LT	
	その他著者 5	Busch OR	
	その他著者 6	Obertop H	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	単一施設と多数の施設において膵頭十二指腸切除術(PD)の合併症発生率と死亡率に関与する因子を明らかにする。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Dept. Surgery, Clinical Epidemiology, Academic Medical Center(AMC), Amsterdam, Netherlands	
	対象者	パートA:AMCにおいてPDを受けた300例を2群に分け，さらに古い1983～1992年の163例と比較 パートB：オランダ国内の全病院においてPDを受けた1126例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	パートA:1992年から1層吻合。1993年からオクトレオタイド7日間投与。1997年から経腸栄養を18時間のサイクルで投与	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後合併症	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	術後死亡率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	再開腹率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	在院日数	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	パートA:年間経験数が増加するに従い，合併症発生率は60%から41%に減少。膵液瘻の出現は10%から5.3%に減少（有意差なし）。胃排出遅延も38%から21%に減少。再開腹は17%から8%に減少。在院期間は24日から15日に減少。在院死亡は4.9%から0.7%に減少。 パートB:全国的なPD術後の死亡率は10.1%で，5年間での変化なし。年間5例以下の病院での死亡率は16%，年間25例以上の施設では死亡率1%で，有意にhigh volume centerでの死亡率が低い。	
	結論	全国での死亡率は減少しておらず，症例数の少ない病院と，高齢者の手術において高い。症例数の多い病院では，よりよい予防策と管理がとられているために合併症が少ない。PDは症例数の多い病院において施行されるべきである。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	江川新一，砂村眞琴	
	レビューワーコメント	Learning Curveがあったことはわかるが，変数をそろえておらず，ケースシリーズに近い。パートBはコホート研究ともいえるためIVとした。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	The effects of regionalization on cost and outcome for one general high-risk surgical procedure	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(6)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	221	
	号		
	ページ	43-49	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Gordon TA	Dept. Surgery and Ophthalmology, The Johns Hopkins Medical Institutions, Baltimore, Maryland
	その他著者 1	Burleyson GP	
	その他著者 2	Tielsch JM	
	その他著者 3	Cameron JL	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	州のなかで，単一の病院JHMIでほとんどの高難度手術が行われる場合に膵頭十二指腸切除術のコストと成果を解析することにより，3次医療の地域化のもたらす効果について検討する。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Dept. Surgery and Ophthalmology, The Johns Hopkins Medical Institutions, Baltimore, Maryland	
	対象者	501例(JHMIの患者は高い保険に加入し，高血圧，糖尿病を有する白人が多く，他の病院の患者はMedicare, Medicaidに加入している黒人で肺合併症が多い，という背景の違いあり)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	なし	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	在院死亡	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	在院期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	在ICU期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	総医療費	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	在院死亡率は症例数と強く相関し，症例の少ない病院での死亡率は6倍(2.2% vs 19.1%)であった。症例の多い病院ではICU滞在期間で2日間少なく，在院日数は平均4.1日短く，総医療費は＄5,400少なかった。2群間の差は1988年にはあまりなかったが，high volume centerは在院日数および医療費を減少させ続けることができたのに対し，他の病院では経時的な改善がなかった。	
	結論	高難度の手術に関してhigh volume centerはより低いコストで，優れた結果を得ることができる。優れたセンターに患者を集める地域化によって患者はより優れた医療を受けることができる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	江川新一，砂村眞琴	
	レビューワーコメント	単一施設vs地域の38病院というコホートの研究でIV。在院死亡以外の合併症については解析不能だが，Jhons Hopkinsのひとり勝ちであることは間違いない。外来でのコストの比較がないので，検査がたいてい外来で行われることを考えると，正確な比較とはいえない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Hospital volume influences outcome in patients undergoing pancreatic resection for cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	West J Med	
	雑誌 ID		
	巻	165	
	号		
	ページ	294-300	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Glasgow RE	すべてのカリフォルニアの病院，298施設から Office of Statewide Health Planning and Developmentに登録された，悪性疾患に対して膵切除を受けた患者
	その他著者 1	Mulvihill SJ	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	施設規模が膵切除手術の結果に及ぼす影響。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	すべてのカリフォルニアの病院，298施設からOffice of Statewide Health Planning and Developmentに登録された，悪性疾患に対して膵切除を受けた患者	
	対象者	1705人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	病院規模	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	手術件数	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	88%の施設が年間2例以下の手術件数。 多数症例を手術する施設は，少数症例の施設よりも，手術死亡率，合併症率，医療費ともに低かった。	
	結論	リスクの高い手術は領域ごとに特定施設に集中させるのがよい。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	High-volume centerにおける膵切除手術の成績が良好であることが示されている。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic factors following curative resection for pancreatic adenocarcinoma:a population-based, linked database analysis of 396 patients	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	237	
	号		
	ページ	74-85	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lim JE	11の癌登録センター
	その他著者 1	Chien MW	
	その他著者 2	Earle CC	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	膵癌治癒切除手術後の予後規定因子の検出。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	11の癌登録センター	
	対象者	11の癌登録センターで登録された，65歳以上の遠隔転移のない治癒切除手術後患396人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	手術	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	予後規定因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	MST 17.6ヵ月。１年生存率60.1%，３年生存率34.3%。教育施設の症例が増加すると生存期間が延長。単変量解析:黒人，教育施設以外の治療，放射線化学療法をしなかった，腫瘍径2センチ以上，悪いgrade，リンパ節転移。裕福な人は補助放射線化学療法を受け，生存期間が延長。多変量解析:補助放射線化学療法の有無。腫瘍径2cm，リンパ節転移なし，grade well，教育施設での治療，富裕層。	
	結論	生物学的な特性は重要だが，補助放射線化学療法が最も強い予後規定因子であった。治療施設や裕福さが予後因子として検出された。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	裕福さは別にして，治療施設が予後規定因子になっている点に注目すべきである。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Management of adenocarcinoma of the body and tail of the pancreas	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	223	
	号		
	ページ	506-511	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Brennan MF	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center
	その他著者 1	Moccia RD	
	その他著者 2	Klimstra D	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	膵癌に対する体尾部切除の意義。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center	
	対象者	膵体尾部癌 切除例 34人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	手術切除	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	手術切除	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	DPでは 手術死亡率 0%，５年生存率 14%	
	結論	膵体尾部癌は切除率が低いが，切除手術の生存期間は膵頭部癌と変わらない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	切除適応の考え方としてPD，DPとも同様にしてよい。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Resection for adenocarcinoma of the body and tail of the pancreas	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Surg	
	雑誌 ID		
	巻	80	
	号		
	ページ	1177-1179	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1993	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Johnson CD	3次，単一施設，Heidelberg大学
	その他著者 1	Schwall G	
	その他著者 2	Flechtenmacher J	
	その他著者 3	Trede M	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	膵体尾部癌に対する手術切除の意義を検討。	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	3次，単一施設，Heidelberg大学	
	対象者	膵癌，膵体尾部癌の手術13人(TP 6人，DP 7人)と，非切17人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	手術	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	MST 13ヵ月，5人が2年以上生存	
	結論	膵体尾部癌の切除率は12%で，切除例に長期生30，43，50ヵ月）が得られた。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	症例が少なく，評価できにくい。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Carcinoma of the body and tail of the pancreas:is curative resection justified？	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	111	
	号		
	ページ	489-494	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Dalton RR	3次，単一施設，Mayo Clinic
	その他著者 1	Sarr MG	
	その他著者 2	van Heerden JA	
	その他著者 3	Colby TV	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	膵体尾部癌に対する根治手術の意義。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	3次，単一施設，Mayo Clinic	
	対象者	25年間に行われた44人の治癒切除となった膵体尾部切除術。このうち26人，ラ島腫瘍12人，Cystoadenocarcinoma 6人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	DP	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	手術死	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	合併症	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	手術死亡2%，罹病率9%。膵癌のMST 10ヵ月。2年生存率15%，5年生存率8%	
	結論	膵内にとどまる膵癌は切除すべきで，さらに補助化学放射線療法を行うべきである。	
	備考		
レビューワーコメント	レビュー・ワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	膵体尾部癌でも切除を推奨してよい。補助化学放射線療法はcontroversial。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Distal pancreatectomy for cancer : Results in U.S. Department of Veterans Affairs hospitals, 1987-1991	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Pancreas	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号		
	ページ	341-344	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Wade TP	2次，米国のVeterans Hospital 159病院
	その他著者 1	Virgo KS	
	その他著者 2	Johnson FE	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	Veterans Hospitalの膵体尾部切除術の成績の記述。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	2次，米国のVeterans Hospital 159病院	
	対象者	膵体尾部切除術患29人，膵頭十二指腸切252人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	**膵体尾部切除**	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	**入院期間**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	**診断**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	**術式**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	**合併症**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	**死亡率**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果		
	結論	膵体尾部癌で遠隔転移がなければ，患者に膵体尾部切除術を提示すべきである。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	尾側膵癌に対しても，手術切除を推奨できることを示した。妥当な結論。死亡率が高い。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Total pancreatectomy for ductal adenocarcinoma of the pancreas. Mayo Clinic experience	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg	
	雑誌 ID		
	巻	142	
	号		
	ページ	308-311	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1981	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	van Heerden JA	3次，単一施設，Mayo Clinic
	その他著者 1	ReMine WH	
	その他著者 2	Weiland LH	
	その他著者 3	McIlrath DC	
	その他著者 4	Ilstrup DM	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	膵癌に対する膵全摘術のアウトカムを記述する。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	3次，単一施設，Mayo Clinic	
	対象者	膵全摘 51人 同時期のPD 141人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	膵全摘	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	患者背景	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	局在	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	リンパ節転移	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	手術死亡率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	合併症率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6	術後インスリン量	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	7	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	男30人，女21人，平均59歳。31%が多中心性癌。49%が領域リンパ節転移陽性。手術死亡 14%(1950年台 17%，1960年台 18%，1970年台 12%)。時代で差なし。入院期間 26日。インスリン 24単位/日。糖尿で２人死亡。3年生存率 9%，5年生存率 2.3%。MST 13ヵ月。	
	結論	膵腸吻合を回避すること以外に，膵全摘の利点はない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	膵全摘は避けるべきとの結論。ただし1980年の論文であり，やや古い。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Total pancreatectomy for ductal cell carcinoma of the pancreas. An update	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	209	
	号		
	ページ	405-410	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1989	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Brooks JR	3次，単一施設，Bringham and Women's Hospital
	その他著者 1	Brooks DC	
	その他著者 2	Levine JD	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	**膵全摘の意義**	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	3次，単一施設，Bringham and Women's Hospital	
	対象者	膵癌 TP	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	TP	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	手術死亡	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	手術死亡率1970～1976年は18%，1977～1986年は0%5 年生存率は14%	
	結論	膵癌に対するTPの死亡率は改善している。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	なし	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Results of total pancreatectomy for adenocarcinoma of the pancreas	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	Stage IVa 膵癌に対する手術的切除療法の意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg	
	雑誌 ID		
	巻	136	
	号		
	ページ	44-47	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Karpoff HM	3次，単一施設，Memorial Sloan-Ketteing Cancer Center
	その他著者 1	Klimstra DS	
	その他著者 2	Brennan MF	
	その他著者 3	Conlon KC	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	TPは根治性で優れていないという仮説を検証する。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	3次，単一施設，Memorial Sloan-Ketteing Cancer Center	
	対象者	膵切除患488人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	膵切除術　特 TP と，PD または DP	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	**手術時間**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	**出血量**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	**合併症率**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	**在院期間**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	**転移陽性リンパ節**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6	**断端陽性率**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	7	**生存期間**	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	膵癌のTPは28人。在院期間32日，合併症率54%，手術死亡1%，MST 9.3ヵ月。転移陽性リンパ節，断端陽性率は予後に影響しない。TPは，PDまたはDPとくらべて，生存期間は悪い。	
	結論	TPは安全に施行できるが，膵癌にTPを行って予後が改善するという結果は得られなかった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	土井隆一郎，藤本康二	
	レビューワーコメント	なし	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Panceaticoduodenectomy with or without distal gastrectomy and extended retroperitoneal lymphadenectomy for periampullary adenocarcinoma, Part 2 Randomized controlled trial evaluating survival, morbidity, and mortality	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (3)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg	
	雑誌 ID		
	巻	236	
	号		
	ページ	355-368	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Yeo CJ	The Johns Hopkins 大学
	その他著者 1	Cameron JL	
	その他著者 2	Lillemore KD	
	その他著者 3	Sohn TA	
	その他著者 4	V|Campbell KA	
	その他著者 5	Sauter PK	
	その他著者 6	Coleman J	
	その他著者 7	Abrams RA	
	その他著者 8	Hruban RH	
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	広義の膵頭部に対する標準の膵頭十二指腸切除（多くは幽門輪温存で膵周囲のリンパ節郭清）と拡大膵頭十二指腸切除（幽門側胃切除と後腹膜リンパ節郭清）を術後合併症，術死，生存率の面より比較。	
	研究デザイン	Evidence level II	
	セッティング	The Johns Hopkins 大学	
	対象者	広義の膵頭部癌に対して膵頭十二指腸切除を受672人中，299人が前向き研究に参加	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	通常のPDと拡大郭清のPD	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後合併症	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	術死	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	生存率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（）
	主な結果	手術時間は拡大が長い。出血，輸血，原発部位，大きさ，リンパ節陽性率，断端陽性率，術死に差はなかった。郭清リンパ節の個数は拡大で通常より多かった。合併症は標準29%，拡大43%で拡大に有意に多かった。胃排泄遅延，膵液瘻，入院日数は有意に拡大で多かった。生存率に有意の差はなかった。	
	結論	拡大PDは標準膵頭切除と同等の術死でなされるが，術後合併症は有意に多かった。このデータからは幽門側胃切除や後腹膜リンパ節郭清の追加の意義はなかった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	拡大切除は全例幽門側胃切除を伴っているが，通常は86%にのみ幽門輪温存であり，胃切除有無の厳密な比較ではない。対象は広義の膵頭部癌で狭義の膵頭部癌だけではなく，十二指腸乳頭部癌，胆管癌などを含んでいる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Results of pancrteaticoduodenectomy for pancreatic cancer: Extended versus standard procedure	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	World J Surg	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号		
	ページ	1309-1314	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Iacono C	Verona 大学病院
	その他著者 1	Accordini S	
	その他著者 2	Bortolasi L	
	その他著者 3	Facci E	
	その他著者 4	Zamboni G	
	その他著者 5	Montresor E	
	その他著者 6	Marinello PD	
	その他著者 7	Serio G	
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	広義の膵頭部に対する標準の膵頭十二指腸切除(多くは幽門輪温存で膵周囲のリンパ節郭清)と拡大膵頭十二指腸切除(幽門側胃切除と後腹膜リンパ節郭清)を術後合併症，術死，生存率の面より比較。	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	Verona大学病院	
	対象者	広義の膵頭部癌に対して膵頭十二指腸切除を受けた4931人はStage I～IIIの膵頭部癌。30日以内の術死１人を除いた30人を対象。1992年11月より1993年12月までは標準PD 13人，1994年１月より1996年９月までは拡大PD17人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	標準PDと拡大郭清のPD	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後合併症	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	入院日	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	再発	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	4	生存率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	手術時間は拡大が長く，郭清リンパ節個数は拡大が多い以外は患者背景や病理学的因子で差はなかった。１，３年生存率は拡大76%，24%に対し，標準は31%，8%(p=0.014)であった。R0では標準か，拡大が生存率に有意に影響していた。しかし，幽門輪温存か，胃切かは生存率の有意な因子でははなかった。R0では拡大が有意に局所再発が少なかった(p=0.034)。	
	結論	例数が少ないが，拡大PDは局所性再発を少なくし，生存率を延長し，sagingを容易にするようだ。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	拡大切除10例(58.8%)で胃切除を，標準では８例(61.5%)で胃切除を伴っており，胃切除有無の厳密な比較ではない。さらに対象は広義の膵頭部癌で狭義の膵頭部癌だけではなく，十二指腸乳頭部癌，胆管癌などを含んでいる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic carcinoma: Reappraisal of surgical experiences in one Japanese University Hospital	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Hepatogastroenterology	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号		
	ページ	3257-3262	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Yamaguchi K	九州大学第一外科
	その他著者 1	Shimzu S	
	その他著者 2	Yokohata K	
	その他著者 3	Noshiro H	
	その他著者 4	Chijiiwa K	
	その他著者 5	Tanaka M.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	膵癌の予後因子の解析。	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	九州大学第一外科	
	対象者	213例中外科切除を受け60例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	手術	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	PDは31例，PPPDは13例に施行され，1，3年生存率は53%，18%と68%と28%で有意差はなかった。	
	結論	PDとPPPDで予後に差はなかった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	膵頭部癌に対する予後因子としてPPPDとPDの予後についてのみ検討している。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreaticoduodenectomy for cancer of the head of the pancreas. 201 patients	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	221	
	号		
	ページ	721-733	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Yeo CJ	Johns Hopkins 大学
	その他著者 1	Cameron JL	
	その他著者 2	Lillemoe KD	
	その他著者 3	Sitzmann JV	
	その他著者 4	Hruban RH	
	その他著者 5	Goodman SN	
	その他著者 6	Dooley WC	
	その他著者 7	Coleman J	
	その他著者 8	Pitt HA	
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	Johns Hopkins大学での膵頭部癌に対する膵頭十二指腸切除(PDやPPPDを含む)の成績.	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	Johns Hopkins大学	
	対象者	膵頭部癌を対して膵頭十二指腸切除(PPPDやPD)を受けた201例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	PPPDもしくはPD	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	合併症	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	術死は5%。全５年生存率は21%。生存率は年代ごとに改善してきた。1970年代の3年生存率は14%，1980年代は21%，1990年代は36%。予後因子の単変量解析では腫瘍径3cm以下，リンパ節陰性，DNA diploid content，Sphaseが18%以下，PPPD，術中出血800m以下，輸血2単位以下，切除端陰性，術後補助化学療法と放射線療法が有意な予後因子で，多変量解析ではDNA diploid content，腫瘍3cm以下，リンパ節陰性，腫瘍断端陰性，外科切除の年代が有意な因子であった。	
	結論	膵癌の予後は年代ごとに改善してきている。腫瘍の性格(DNA content)，腫瘍径，リンパ節の状態，切除端の状態が強く予後と相関していた	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	世界でおそらく最も症例数の多いJohns Hopkins大学の後ろ向きの予後因子の検討である。単変量ではPPPDが予後因子として残ったが，多変量解析では有意ではなかった。年代ごとに生存率が改善してきており，PPPDは最近の例に行われているので，最近（おそらくより小さな膵癌）の症例にPPPDが行われていることが影響しているのかも知れない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prospective randomized comparison between pylorus-preserving and standard pancreaticoduodenectomy	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (3)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Surg	
	雑誌 ID		
	巻	86	
	号		
	ページ	603-607	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lin PW	台湾の Cheng Kung 大学
	その他著者 1	Lin YJ	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	広義の膵頭部に対するPD to PPPDのRCT	
	研究デザイン	Evidence level II	
	セッティング	台湾のCheng Kung大学	
	対象者	広義の膵頭部癌に対してPDは15例，PPPDは16例の前向き研究	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	PDとPPPD	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後合併症	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	術死	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	PPPD術後1例死亡，PD術死なし。PDは平均235分，500mlの出血，輸血は平均0，PpPDは平均230分，350ml，輸血は0。PD後２例に膵液瘻，PpPDはなし。胃排泄遅延はPpPDで6/16，PDで1/15。	
	結論	PpPD，PDともに合併症や術死が少なくでき，合併症，手術死亡，手術時間，輸血で差はなかった。胃排泄遅延はPpPDに多かった。	
	備考		
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	PDとPpPDのランダム化比較試験であるが，予後の検討なし。広義の膵頭部癌。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Randomized prospective trial of pylorus-preserving vs. classic duodenopancreatectomy (Whipple procedure): Initial clinical results	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (3)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Gastrointest Surg	
	雑誌 ID		
	巻	4	
	号		
	ページ	443-452	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Seiler CA	Bern大学病院
	その他著者 1	Wagner M	
	その他著者 2	Sadowski C	
	その他著者 3	Kulli C	
	その他著者 4	Buchler MW	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	患者背景，合併症，手術死病率，生存率についてRCT	
	研究デザイン	Evidence level II	
	セッティング	Bern大学病院	
	対象者	広義の膵頭部癌に対して膵頭十二指腸切除を受114人で77人がエントリー。40例はPD，37例はPPPD	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	標準PDと拡大郭清のPD	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後合併症	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	入院日数	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	PPPDは手術時間が短く，出血量が少なく，輸血も少なかった。手術死亡は両郡で差はなかったが，PDで合併症が多かった。再発，平均生存，生存曲線に差はなかった。	
	結論	PDとPPPDでradicalさに差はなく，PPPDは広義の膵頭部癌の術式たりうる。	
	備考		
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	対象は広義の膵頭部癌で狭義の膵頭部癌だけではなく，十二指腸乳頭部癌，胆管癌などを含んでいる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pylorus preserving pancreaticoduodenectomy versus standard Whipple procedure: A prospective, randomized, multicenter analysis of 170 patients with pancreatic and periampullary tumors	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺｰﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(3)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg	
	雑誌 ID		
	巻	240	
	号		
	ページ	738-745	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Tran KT	オランダの 7 施設
	その他著者 1	Smeenk HG	
	その他著者 2	van Eijck CH	
	その他著者 3	Kazemier G	
	その他著者 4	Hop WC	
	その他著者 5	Greve JW	
	その他著者 6	Terpstra OT	
	その他著者 7	Zijlstra JA	
	その他著者 8	Klinkert P	
	その他著者 9	Jeekel H	
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	PPPDとPDが手術時間，出血量，入院期間，胃排出遅延，生存率において同等か，多施設，前向き試験を行った。	
	研究デザイン	Evidence level II	
	セッティング	オランダの7施設	
	対象者	膵頭部癌や膵頭十二指腸領域癌170例の連続した症例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	PPPDもしくはPD	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	患者背景	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	術中所見	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	病理所見	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	術後合併症	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	術後経過（生死）	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	PD83例，PPPD87例。年齢，性，部位，Stageに差はなかった。術中出血，手術時間，術後胃排出遅延に2群間に差はなかった。術後体重減少はPDで良好な傾向にあった。術死は5.3%。切除所端はPDの12例，PPPDの19例に陽性で有意差はなかった。長期生存率に有意差はなかった。	
	結論	PDもPPPDに差はなく，有効な手術術式である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	膵頭部癌や膵頭十二指腸領域癌に対する多施設，前向き研究で予後を含め，差はなかった。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Randomized clinical trial of pylorus-preserving duodenopancreatectomy versus classical Whipple resection:long term results	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺｰﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(3)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Surg	
	雑誌 ID		
	巻	92	
	号		
	ページ	547-556	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Seiler CA	Berne 大学の Visceral and Transplantation Surgery
	その他著者 1	Wagner M	
	その他著者 2	Bachmann T	
	その他著者 3	Redaelli CA	
	その他著者 4	Schmied B	
	その他著者 5	Uhl W	
	その他著者 6	Fries H	
	その他著者 7	Buchler MW	
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	膵頭部癌を含む膵頭十二指腸領域癌に対すPPPDとPDの長期比較。	
	研究デザイン	Evidence level II	
	セッティング	Berne大学のVisceral and Transplantation Surgery	
	対象者	膵頭部癌を含む膵頭十二指腸領域癌患者PDもしくはPPPDを受けた214例，術中所見で84例を除いた130例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	PPPDもしくはPD	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	臨床項目	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	病理所見	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	短期評価	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	QOL	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	66例はPD，64例はPPPDを施行。そのうち，膵癌110例（57例はPD，53例はPPPD）では長期に生存率，QOL，体重増に平均63.1ヵ月の経過観察で差はなった。術後6ヵ月で労働能力がPPPDの方が有意に良好であった（77% vs 56%，p=0.019）。	
	結論	膵頭部癌や膵頭十二指腸領域癌に対しPPPDとPDは同様に有効な手術であった。術後早期にはPPPDがPDよりいくらかの有用性があった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	膵頭部癌や膵頭十二指腸領域癌に対する検討であるが，長期に生存率に差はなかった。ただ，術後早期PPPDの方が有用性がいくらか認められた。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	膵癌取扱い規約 2002年4月【第5版】	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (13)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	金原出版株式会社	
	雑誌 ID		
	巻		
	号		
	ページ		
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	日本膵臓学会	日本膵臓学会
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	膵癌の治療成績向上をめざして，共通の基準の下に資料を比較検討するために，臨床的ならびに病理学的な取り扱い法を規定するものとして作成された。	
	研究デザイン	Evidence level	
	セッティング	日本膵臓学会	
	対象者	膵臓に原発した癌腫を主たる対象	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	臨床的ならびに病理学的な取り扱い法	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	外科的治療	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	治療成績	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	切除材料の取り扱いと検索法	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	膵腫瘍の組織所見	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	なし	
	結論	なし	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	日本の膵癌取扱い規約であり，欧米より膵癌治療成績を反映する良好な規約と評価されている。しかし，欧米の取扱い規約と比較するとやや煩雑との意見もある。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	日本膵臓学会膵癌登録 20年間の総括	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ 2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ 3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験 6.ｺﾎｰﾄ研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	膵臓	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号		
	ページ	101-169	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	日本膵臓学会膵癌登録委員会	日本膵臓学会の全国膵癌登録事業
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	1981年より2000までに日本膵臓学会全国膵癌登録に登録された23,302例の統計解析。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	日本膵臓学会の全国膵癌登録事業	
	対象者	日本膵臓学会の全国集計に登録された症例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	切除リンパ節の組織学的検索	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5番，6番リンパ節の転移の有無	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	5番幽門上リンパ節は3群で4,910例の中転移なし3,901例，転移あり72例で陽性率は1.5%。6番幽門下リンパ節は2群で4,910例の中転移なし3,869例，転移あり298例で陽性率は6.1%。	
	結論	幽門上リンパ節と幽門下リンパ節の転移率は1.5%，6.1%であった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	幽門上下リンパ節の転移率は上下とも10%以下で，特に幽門上は1.5%と低率であった。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	膵頭部癌に対するPpPDの適応と成績	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日消外会誌	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号		
	ページ	2419-2422	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	羽鳥　隆	東京女子医科大学附属消化器病センター外科
	その他著者 1	今泉俊秀	
	その他著者 2	原田信比古	
	その他著者 3	福田　晃	
	その他著者 4	高崎　健	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	浸潤性膵管癌に対して適応を限定してPpPDを施行してきた。適応の妥当性を検討した。	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	東京女子医科大学附属消化器病センター外科	
	対象者	膵頭部浸潤性膵管癌切154例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	PD88例とPpPD66例	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	進行度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	根治度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	5年生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	平均生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	再発様式	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6	術後の PS	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	7	体重変動を後ろ向きに比較	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	約80%で安全に行われ，進行度，根治度，5年生存率，平均生存期間に差はなかった。再発様式は後腹膜再発，肝転移が多く，胃周囲リンパ節再発はなかった。術後PS，体重変動に差はなかった。	
	結論	膵頭部癌に対する基本術式としてPpPDを導入できる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	PpPDの選択が十二指腸第１部または胃への直接浸潤を認めず，胃周囲リンパ節3，4，5，6への転移を認めない例に限定され，後ろ向き研究であるのと相まってPDとの比較は困難である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	膵癌に対する治療成績の評価	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1. 有り 2. 無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	膵頭部癌に対しての膵頭十二指腸切除において胃を温存する意義はあるか	
91 書誌情報	研究デザイン	1.ﾚﾋﾞｭｰ　2.ﾒﾀｱﾅﾘｼｽ　3.ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験　4.非ﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験 5.非比較試験　6.ｺﾎｰﾄ研究　7.症例対照研究　8.症例集積 9.症例報告　10.横断研究　11.比較観察研究　12.非比較観察研究 13.その他　(9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	消化器外科	
	雑誌 ID		
	巻	21	
	号		
	ページ	1063-1070	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	湯浅典博	名古屋大学第一外科
	その他著者 1	神谷順一	
	その他著者 2	近藤　哲	
	その他著者 3	椰野正人	
	その他著者 4	金井道夫	
	その他著者 5	上坂克彦	
	その他著者 6	二村雄次	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	浸潤性膵管癌に対しのPDとPpPD・PRPDを胃周囲リンパ節・術後生存期間を比較検討した。	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	名古屋大学第一外科	
	対象者	浸潤性膵管癌切149例。1990年以前は標準術式としてPDを行った。1990年以降はPpPDを標準術式とし，1995年8月以降は膵頭上部前面被膜や十二指腸第一部に癌浸潤を認める症例に対して，幽門輪まで切除する膵頭十二PRPDを行った。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	PD53例とPpPD・PRPD29例	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	幽門下リンパ節以外の胃周囲リンパ節に認める例では通常のPDやTPを行っても非治癒切除となる可能性が高いPDとPPPDと生存率に有意の差は認めなかった。PPPD術後十二指腸断端に再発を認めていない。	
	結論	幽門輪温存膵頭十二指腸切除は適応を誤らなければ膵頭部癌に対する根治性は通常の膵頭十二指腸と差はなく，QOLも良好である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山口幸二，渡部雅人	
	レビューワーコメント	PpPD・PRPDの適応が選択され，後ろ向き研究であるのと相まってPDとの比較は困難である。	

厚生労働科学研究費補助金（医療安全・医療技術評価総合研究事業）分担研究報告書

大腸がん診療ガイドラインの適用と評価に関する研究

分担研究者	杉原　健一	東京医科歯科大学大学院腫瘍外科	教授
研究協力者	伊藤　芳紀	国立がんセンター中央病院放射線科	医員
	亀岡　信悟	東京女子医科大学外科学第二講座	教授
	楠　　正人	三重大学医学部外科学第二講座	教授
	固武健二郎	栃木県立がんセンター外科	手術部長
	澤田　俊夫	群馬県立がんセンター	院長
	島田　安博	国立がんセンター中央病院	医長
	高橋　慶一	東京都立駒込病院外科	医長
	田中　信治	広島大学病院光学医療診療部	部長
	望月　英隆	防衛医科大学校外科学第一講座	教授
	渡辺　昌彦	北里大学医学部外科学講座	教授
主任研究者	平田　公一	札幌医科大学第一外科	教授

研究要旨

大腸がんの診療に携わる医師を対象として，大腸がんの標準的な治療方針を示す，大腸がん治療の施設間格差をなくす，過剰診療・過少診療をなくす，医療者と患者の相互理解を深める，ことを目的として「大腸癌治療ガイドライン」と一般向けに「大腸癌治療ガイドラインの解説」を，それぞれ2005年7月と2006年1月に作成した。2007年1月現在それぞれ25,000冊，19,000冊が販売された。改訂に向けてのアンケート調査を行い，それぞれ600名，333名から回答を得，現在分析を行っている。

A. 研究目的

近年，本邦では大腸がんは急速に増加し，その頻度は米国と同程度になった。大腸癌研究会の集計では，年間登録数がこの25年間に4.5倍になった。厚生労働省の死亡統計では，大腸がんの死亡頻度は徐々に増加し，この30年間に男性では約2倍になり死因の第4位，女性では1.3倍になり死因の第2位になった，と報告している。

この間，本邦では大腸がんの早期発見と治療成績の向上を目指し多くの医療技術が開発されてきた。その結果，大腸がんに対する本邦の内視鏡治療や外科治療は世界のトップレベルを維持している。しかし，大腸がんに罹患するすべての人々がその恩恵を享受しているとはいえない。また，大腸がん治療に関し，専門医師・病院ではその治療方針にある程度のコンセンサスが得られてはいるが，一般病院にそれが反映されていない。

大腸癌研究会では，大腸がんの診療に携わる医師を対象として，大腸がんの標準的な治療方針を示すことにより，大腸がん治療の施設間格差をなくす，過剰診療・過少診療をなくす，医療者と患者の相互理解を深める，こ

とを目的として大腸がん治療ガイドラインの作成を試みた。

B. 研究方法

ガイドライン作成委員会を設置し，医療者向けの「大腸癌治療ガイドライン」と一般人のための「大腸癌治療ガイドラインの解説」の作成を行う。

作成されたガイドラインの評価と改訂のためにアンケート調査を行う。

（倫理面への配慮）

個別の患者を対象とする研究ではないため，研究対象者への対応に関する倫理面の問題はないと判断される。

C. 研究結果

1) 「大腸癌治療ガイドライン　医師用2005年版」が2005年7月に出版され，2007年1月現在，25,000冊が販売された。ホームページにも掲載された。
2) 「大腸癌治療ガイドラインの解説」が2006年1月に出版され，2007年1月現在19,000冊が販売された。ホームページにも掲載された。
3) 「大腸癌治療ガイドライン　医師用2005年版」のアンケートを422施設に送付し，600名から回答を得た。現在分析中である。
4) 「大腸癌治療ガイドラインの解説」のアンケートは研究協力者に送付し，配布を依頼した。333名からの回答を得た。ガイドラインを理解するための基礎知識は80%が理解できたと答えたが，ガイドラインの解説では30%が理解できなかったと回答した。また，専門用語にルビをふること，専門用語の解説の一覧，緩和ケアの詳細，治療成績の記載，の要望があった。

D. 考　察

ガイドライン医師用と解説のいずれもが20,000冊近く購入されていることは，これらが多くの医師の大腸がん診療の参考になっていて，また，患者における治療の理解に繋がっていると考える。アンケート結果を参考にして改訂を行う予定である。

E. 結　論

大腸がん治療ガイドラインは大腸がんの診療に従事している多くの医師や一般の人たちの大腸がん治療の理解に役立っている。

F. 研究発表

1．論文発表

1) 大腸癌研究会編。大腸癌治療ガイドライン　2005年7月，金原出版，東京
2) 大腸癌研究会編。「大腸癌治療ガイドラインの解説」2006，金原出版，東京
3) 固武健二郎，杉原健一。大腸癌治療ガイドライン−作成委員の立場から−，最新医学別冊 227-234，最新医学社，2006年1月，東京
4) 榎本雅之，杉原健一。大腸癌治療ガイドライン（2005年版），外科，2006 ;68 :159-169
5) 榎本雅之，杉原健一。ガイドラインに基づいた大腸癌の標準治療，医学のあゆみ，別冊，消化器疾患，642-645，医歯薬出版，東京，2006年4月
6) 杉原健一。大腸癌治療のコンセンサス。コンセンサス癌治療 2006 :5 :70-74

2．学会発表

1) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインの解説。大分消化器病懇話会。2004年12月，大分市
2) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインの解説。第14回東北癌フォーラム。2005年2月，仙台市
3) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインの解説。第64回茨城県農村医学会。2005年3

月，つくば学園都市

4) 杉原健一。市民公開講座　大腸癌治療ガイドラインの解説。オミックス医療が拓くイリョウシンポジウム。2005 年 10 月，東京

5) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインの解説。ラジオニッケイ。2005 年 10 月 24 日放送

6) 杉原健一。イブニングセミナー 1，大腸癌治療ガイドラインの解説。第 60 回日本大腸肛門病学会総会，2005 年 10 月，東京

7) 杉原健一。特別企画：癌治療ガイドラインの功罪，第 61 回日本消化器外科学会定期学術集会　2006 年 7 月 14 日，東京

8) 杉原健一。特別講演：大腸癌治療ガイドライン。第 61 回日本大腸肛門病学会，2006 年 9 月 30 日，弘前

9) 杉原健一。ワークショップ 4：固形癌診療ガイドライン作成後の問題点と意義。第 44 回日本癌治療学会　2006 年 10 月 18 日，東京

3．講　演

1) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインの解説。第 11 回愛媛消化管がん懇話会，2006 年 2 月 18 日，松山

2) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインの概説。第 3 回鬼怒川フォーラム，2006 年 3 月 4 日，鬼怒川温泉

3) 杉原健一。大腸癌。バイオミックス情報学人材養成プログラム。2006 年 5 月 26 日，東京

4) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインの概説。臨床外科共同研究会第 19 回大腸疾患分科会，2006 年 6 月 9 日，大阪

5) 杉原健一。大腸癌治療ガイドラインおよび化学療法の概説。第 14 回北海道外科癌治療学会，2006 年 6 月 19 日，札幌

6) 杉原健一。大腸癌治療ガイドライン。第 6 回中頭がん診療セミナー，2006 年 10 月 21 日，沖縄市

7) 杉原健一。大腸癌の標準治療と最新治療。都築医師会講演会，2006 年 11 月 6 日，横浜

8) 杉原健一。大腸癌の標準治療と最新治療。国立印刷局病院講演会，2006 年 11 月 30 日，東京

9) 杉原健一。大腸癌の標準治療と最新治療。第 2 回臨床外科フォーラム，2006 年 12 月 18 日，山形

G. 知的財産の出願・登録状況

1．特許取得	該当なし
2．実用新案登録	該当なし
3．その他	該当なし

H. 資　料

1) 大腸癌研究会：「大腸癌治療ガイドライン－医師用（2005 年版）」，2005，金原出版，東京

2) 大腸癌研究会：「大腸癌治療ガイドラインの解説」2006，金原出版，東京

3) 大腸がんの治療アルゴリズム，治療ガイドライン，構造化抄録（日本癌治療学会がん診療ガイドライン公開 website 掲載ページハンドアウト）

分担研究報告書（大腸がん）資料１：大腸癌研究会「大腸癌治療ガイドライン－医師用」
（2005 年，金原出版）から転載

大腸癌
治療ガイドライン

医師用　2005年版

大腸癌研究会/編

金原出版株式会社